

令和4年度
第9回市政モニターアンケート

「認知症支援・介護予防に関する意識調査」

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
【認知症に関する経験】	
(1) 認知症に関する経験	2
【認知症の高齢者等の外出支援について】	
(2) 認知症の人の外出支援のために必要だと思うこと	4
(3) 認知症の人の外出支援のために市が行っているサービス	6
(4) 他の自治体での賠償責任保険の活用について	8
(5) 損害賠償責任保険の被保険者範囲について	9
(6) 市による認知症の人を対象とする補償制度の整備について	10
(7) 市が補償制度を整備した場合の保険料負担について	11
(8) 市が補償すべきでないとする理由について	12
【認知症に関する相談や受診について】	
(9) 認知症での医療機関受診について	13
(10) 「ものわすれ外来」について	14
(11) 地域包括支援センターでの相談について	15
(12) 市が行っている相談支援事業について	16
【オンラインを使った健康づくりや介護予防に関して】	
(13) 自宅のインターネット環境(Wi-Fi)について	18
(14) オンラインでの健康づくりや介護予防の教室について	19
(15) オンラインの活用場面について	20
(16) その他、認知症支援・介護予防に関するご意見	21
IV 全体考察	22

I 調査の概要

調査対象者 市政モニター 149人
 回答者数 132人(回収率 88.6%)
 調査実施日 令和4年12月7日～令和4年12月21日
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査
 調査実施課 北九州市広報室広聴課 TEL582-2527
 調査依頼課 北九州市保健福祉局 認知症支援・介護予防センター
 TEL522-8765

II 市政モニターの構成

R4.12.7

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	149 (100.0%)	64 (43.0%)	85 (57.0%)	区 別			
10歳代	2 (1.3%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	門司区	19 (12.8%)	10 (6.7%)	9 (6.0%)
20歳代	19 (12.8%)	9 (6.0%)	10 (6.7%)	小倉北区	28 (18.8%)	13 (8.7%)	15 (10.1%)
30歳代	22 (14.8%)	4 (2.7%)	18 (12.1%)	小倉南区	31 (20.8%)	12 (8.1%)	19 (12.8%)
40歳代	25 (16.8%)	11 (7.4%)	14 (9.4%)	若松区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
50歳代	23 (15.4%)	11 (7.4%)	12 (8.1%)	八幡東区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
60歳代	25 (16.8%)	13 (8.7%)	12 (8.1%)	八幡西区	37 (24.8%)	14 (9.4%)	23 (15.4%)
70歳以上	33 (22.1%)	16 (10.7%)	17 (11.4%)	戸畑区	12 (8.1%)	7 (4.7%)	5 (3.4%)

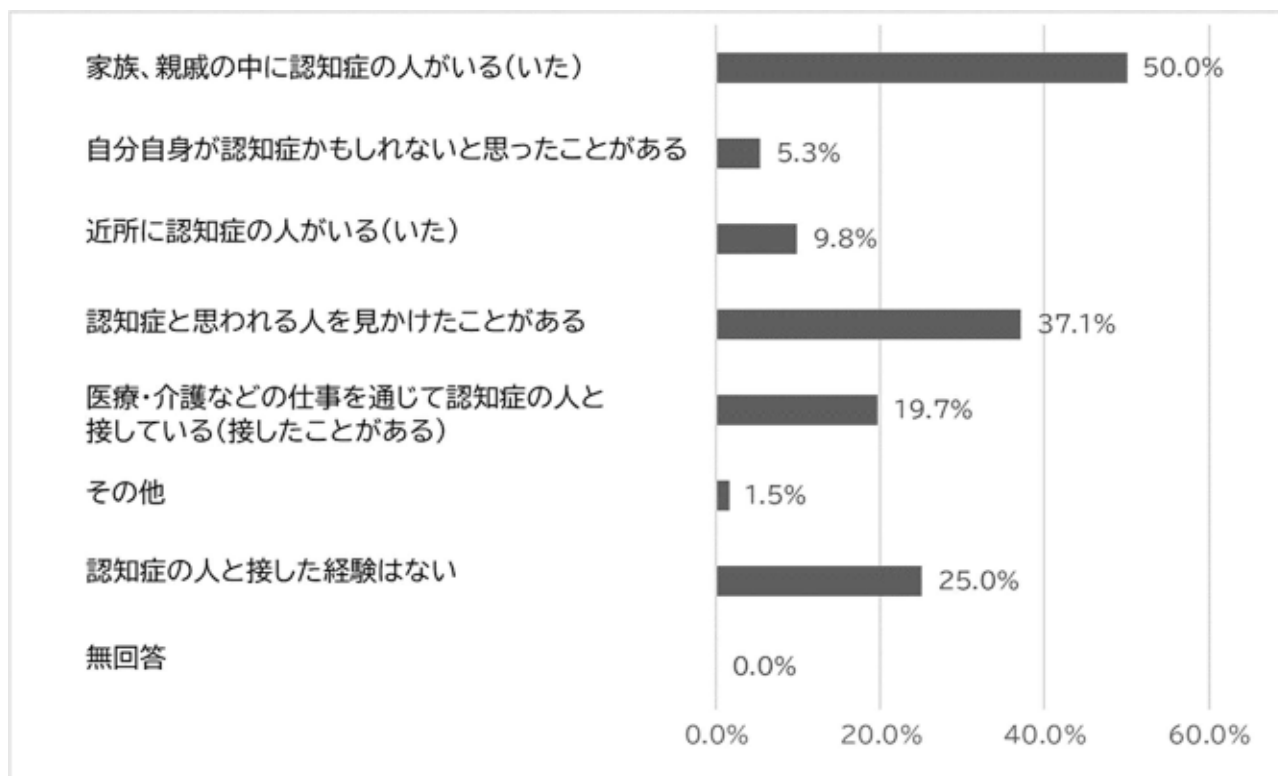
※モニター総数149名のうち郵送モニター24名、ネットモニター125名

※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

(認知症に関する経験)

問1 認知症に関する経験として、あてはまるものを教えてください。(複数回答可)



		回答者数	家族、親戚の中に認知症の人がいる(いた)	自分自身が認知症かもしれないと思ったことがある	近所に認知症の人がいる(いた)	認知症と思われる人を見かけたことがある	医療・介護などの仕事を通じて認知症の人と接している(接したことがある)	その他
全体		132人	50.0%	5.3%	9.8%	37.1%	19.7%	1.5%
性別	男性	54人	46.3%	3.7%	13.0%	37.0%	13.0%	1.9%
	女性	78人	52.6%	6.4%	7.7%	37.2%	24.4%	1.3%
年齢別	10歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	25.0%	0.0%	8.3%	16.7%	25.0%	0.0%
	30歳代	20人	65.0%	0.0%	10.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	40歳代	25人	52.0%	12.0%	0.0%	44.0%	32.0%	0.0%
	50歳代	23人	52.2%	0.0%	4.3%	43.5%	21.7%	4.3%
	60歳代	23人	56.5%	8.7%	17.4%	34.8%	13.0%	0.0%
	70歳以上	28人	39.3%	7.1%	17.9%	50.0%	10.7%	3.6%
区別	門司区	15人	40.0%	13.3%	6.7%	40.0%	6.7%	0.0%
	小倉北区	25人	32.0%	4.0%	16.0%	40.0%	24.0%	4.0%
	小倉南区	26人	53.8%	0.0%	11.5%	34.6%	30.8%	3.8%
	若松区	10人	70.0%	10.0%	10.0%	30.0%	30.0%	0.0%
	八幡東区	10人	70.0%	20.0%	0.0%	40.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	35人	54.3%	2.9%	5.7%	37.1%	14.3%	0.0%
	戸畑区	11人	45.5%	0.0%	18.2%	36.4%	18.2%	0.0%

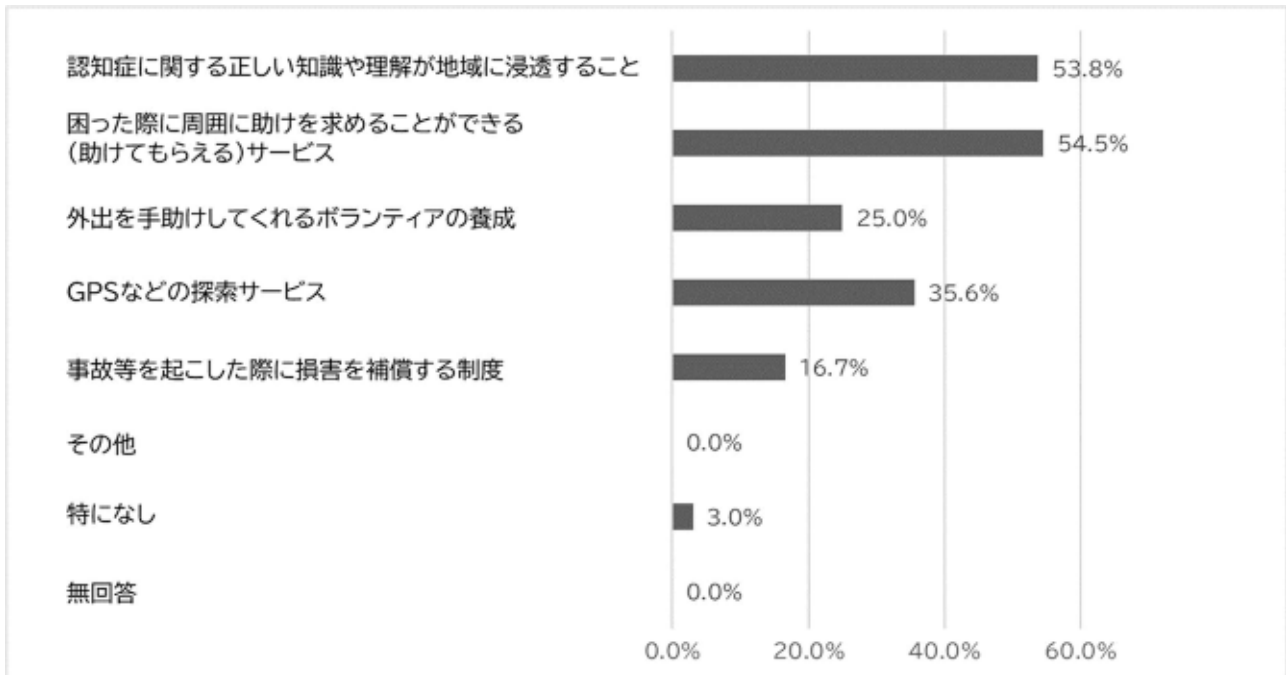
(次ページへ続く)

		回答者数	認知症の人と接した経験はない	無回答
全体		132人	25.0%	0.0%
性別	男性	54人	27.8%	0.0%
	女性	78人	23.1%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	41.7%	0.0%
	30歳代	20人	25.0%	0.0%
	40歳代	25人	20.0%	0.0%
	50歳代	23人	17.4%	0.0%
	60歳代	23人	30.4%	0.0%
	70歳以上	28人	25.0%	0.0%
区別	門司区	15人	33.3%	0.0%
	小倉北区	25人	28.0%	0.0%
	小倉南区	26人	15.4%	0.0%
	若松区	10人	20.0%	0.0%
	八幡東区	10人	10.0%	0.0%
	八幡西区	35人	31.4%	0.0%
	戸畑区	11人	27.3%	0.0%

認知症に関する経験として、「家族、親戚の中に認知症の人がいる(いた)」が 50.0%で最も多く、次いで「認知症と思われる人を見かけたことがある」が 37.1%でした。
一方で今回の調査で「認知症の人と接した経験はない」と回答した方は 25.0%でした。

(認知症の高齢者等の外出支援について)

問2 認知症の人が安心して外出するために主に必要だと思うことは何ですか。(2つまで回答)



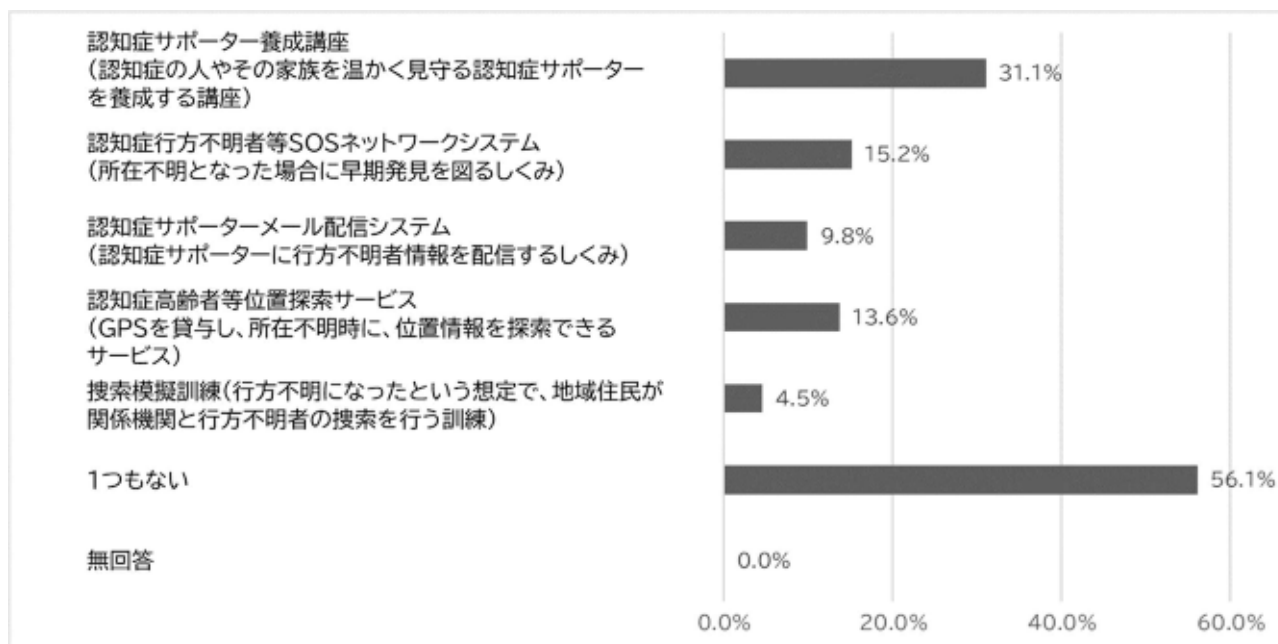
		回答者数	認知症に関する正しい知識や理解が地域に浸透すること	困った際に周囲に助けを求められることができる(助けてもらえる)サービス	外出を手助けしてくれるボランティアの養成	GPSなどの探索サービス	事故等を起こした際に損害を補償する制度	その他
全体		132人	53.8%	54.5%	25.0%	35.6%	16.7%	0.0%
性別	男性	54人	61.1%	50.0%	27.8%	29.6%	18.5%	0.0%
	女性	78人	48.7%	57.7%	23.1%	39.7%	15.4%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	41.7%	66.7%	16.7%	8.3%	25.0%	0.0%
	30歳代	20人	45.0%	50.0%	25.0%	35.0%	20.0%	0.0%
	40歳代	25人	44.0%	48.0%	28.0%	48.0%	16.0%	0.0%
	50歳代	23人	56.5%	52.2%	30.4%	43.5%	8.7%	0.0%
	60歳代	23人	69.6%	52.2%	13.0%	43.5%	13.0%	0.0%
	70歳以上	28人	60.7%	64.3%	28.6%	21.4%	21.4%	0.0%
区別	門司区	15人	53.3%	66.7%	13.3%	40.0%	20.0%	0.0%
	小倉北区	25人	68.0%	52.0%	28.0%	24.0%	12.0%	0.0%
	小倉南区	26人	57.7%	57.7%	19.2%	34.6%	11.5%	0.0%
	若松区	10人	60.0%	50.0%	40.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	10人	40.0%	70.0%	20.0%	50.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	35人	40.0%	45.7%	28.6%	45.7%	25.7%	0.0%
	戸畑区	11人	63.6%	54.5%	27.3%	18.2%	18.2%	0.0%

(次ページへ続く)

		回答者数	特になし	無回答
全体		132人	3.0%	0.0%
性別	男性	54人	3.7%	0.0%
	女性	78人	2.6%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	8.3%	0.0%
	30歳代	20人	10.0%	0.0%
	40歳代	25人	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	0.0%
	60歳代	23人	4.3%	0.0%
	70歳以上	28人	0.0%	0.0%
区別	門司区	15人	0.0%	0.0%
	小倉北区	25人	0.0%	0.0%
	小倉南区	26人	3.8%	0.0%
	若松区	10人	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	0.0%
	八幡西区	35人	5.7%	0.0%
	戸畑区	11人	9.1%	0.0%

認知症の人が安心して外出するために必要だと思うことについて「困った際に周囲に助けを求めることができる(助けてもらえる)サービス」が 54.5%、「認知症に関する正しい知識や理解が地域に浸透すること」が 53.8%、「GPSなどの探索サービス」が 35.6%で上位3つに挙げられました。

問3 認知症の人が安心して外出するために北九州市が行っているサービスで知っているものはありますか。(複数回答可)



		回答者数	認知症サポーター養成講座 (認知症の人やその家族を温かく見守る認知症サポーターを養成する講座)	認知症行方不明者等SOSネットワークシステム (所在不明となった場合に早期発見を図るしくみ)	認知症サポーターメール配信システム (認知症サポーターに行方不明者情報を配信するしくみ)	認知症高齢者等位置探索サービス (GPSを貸与し、所在不明時に、位置情報を探索できるサービス)	搜索模擬訓練 (行方不明になったという想定で、地域住民が関係機関と行方不明者の搜索を行う訓練)
全体		132人	31.1%	15.2%	9.8%	13.6%	4.5%
性別	男性	54人	29.6%	20.4%	13.0%	14.8%	5.6%
	女性	78人	32.1%	11.5%	7.7%	12.8%	3.8%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	20人	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
	40歳代	25人	24.0%	12.0%	16.0%	16.0%	0.0%
	50歳代	23人	34.8%	21.7%	4.3%	17.4%	0.0%
	60歳代	23人	43.5%	17.4%	4.3%	13.0%	13.0%
	70歳以上	28人	39.3%	21.4%	17.9%	17.9%	3.6%
区別	門司区	15人	26.7%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
	小倉北区	25人	44.0%	16.0%	12.0%	16.0%	0.0%
	小倉南区	26人	30.8%	11.5%	11.5%	19.2%	3.8%
	若松区	10人	40.0%	10.0%	10.0%	20.0%	20.0%
	八幡東区	10人	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	八幡西区	35人	28.6%	25.7%	8.6%	17.1%	2.9%
	戸畑区	11人	18.2%	18.2%	27.3%	0.0%	9.1%

(次ページへ続く)

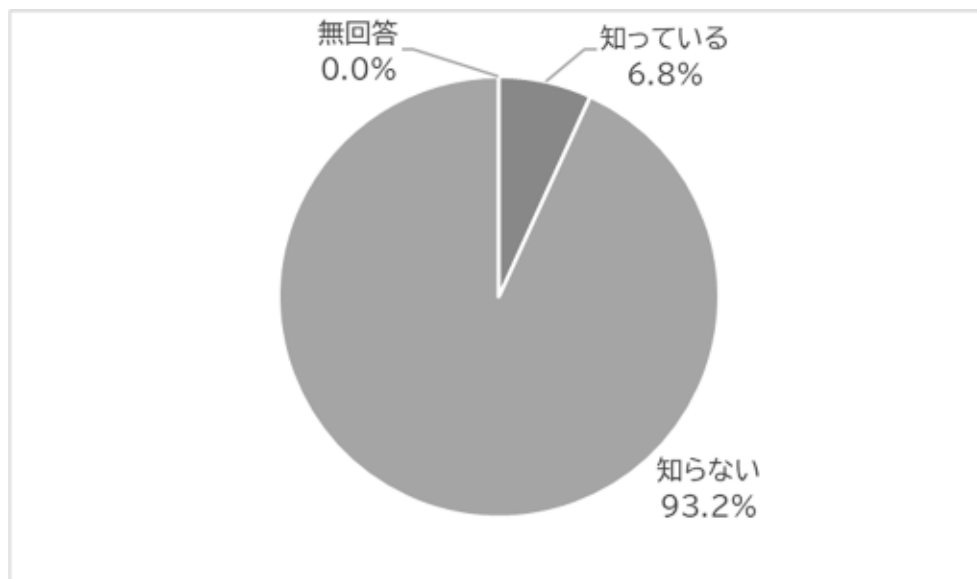
		回答者数	1つもない	無回答
全体		132人	56.1%	0.0%
性別	男性	54人	57.4%	0.0%
	女性	78人	55.1%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	100.0%	0.0%
	20歳代	12人	83.3%	0.0%
	30歳代	20人	65.0%	0.0%
	40歳代	25人	60.0%	0.0%
	50歳代	23人	56.5%	0.0%
	60歳代	23人	52.2%	0.0%
	70歳以上	28人	35.7%	0.0%
区別	門司区	15人	73.3%	0.0%
	小倉北区	25人	40.0%	0.0%
	小倉南区	26人	53.8%	0.0%
	若松区	10人	50.0%	0.0%
	八幡東区	10人	80.0%	0.0%
	八幡西区	35人	60.0%	0.0%
	戸畑区	11人	45.5%	0.0%

認知症の人が安心して外出するために北九州市が行っているサービスで知っているものについては、「1つもない」が56.1%でした。

若年層ほど「1つもない」と回答している人が多く、10、20歳代では80%以上となりました。

知っているサービスは「認知症サポーター養成講座」が最も多く31.1%、次いで「認知症行方不明者等SOSネットワークシステム」が15.2%でした。

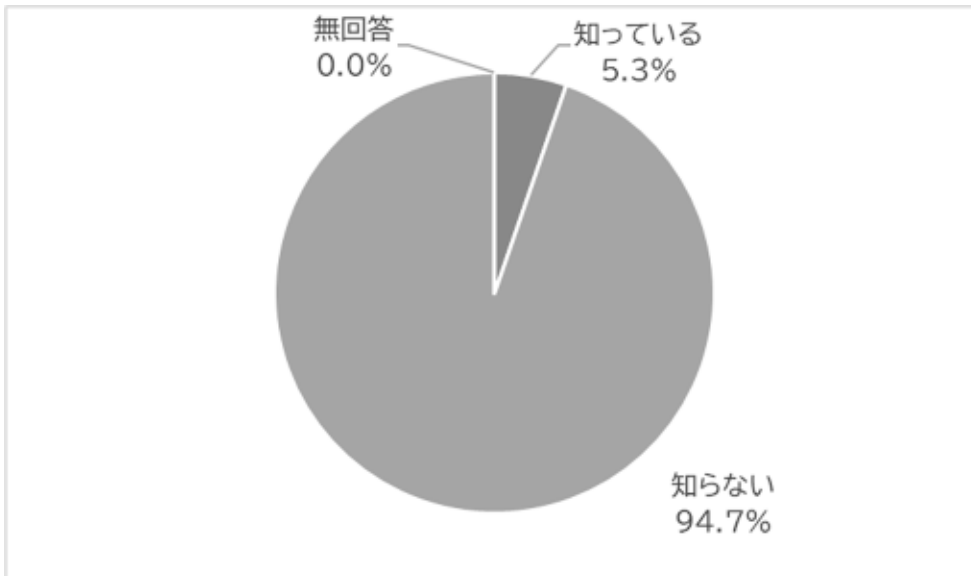
問4 他の自治体では、認知症の人を対象とする民間保険会社の賠償責任保険を活用した補償を行っていますか？



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		132人	6.8%	93.2%	0.0%
性別	男性	54人	1.9%	98.1%	0.0%
	女性	78人	10.3%	89.7%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	12人	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	20人	10.0%	90.0%	0.0%
	40歳代	25人	8.0%	92.0%	0.0%
	50歳代	23人	8.7%	91.3%	0.0%
	60歳代	23人	4.3%	95.7%	0.0%
	70歳以上	28人	7.1%	92.9%	0.0%
区別	門司区	15人	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉北区	25人	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉南区	26人	15.4%	84.6%	0.0%
	若松区	10人	10.0%	90.0%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡西区	35人	5.7%	94.3%	0.0%
	戸畑区	11人	18.2%	81.8%	0.0%

他の自治体で民間保険会社の賠償責任保険を活用した補償を行っていることについて、「知っている」が 6.8%、「知らない」が 93.2%でした。他の自治体での賠償保険を活用した補償については、ほとんど知られていないことが伺えます。

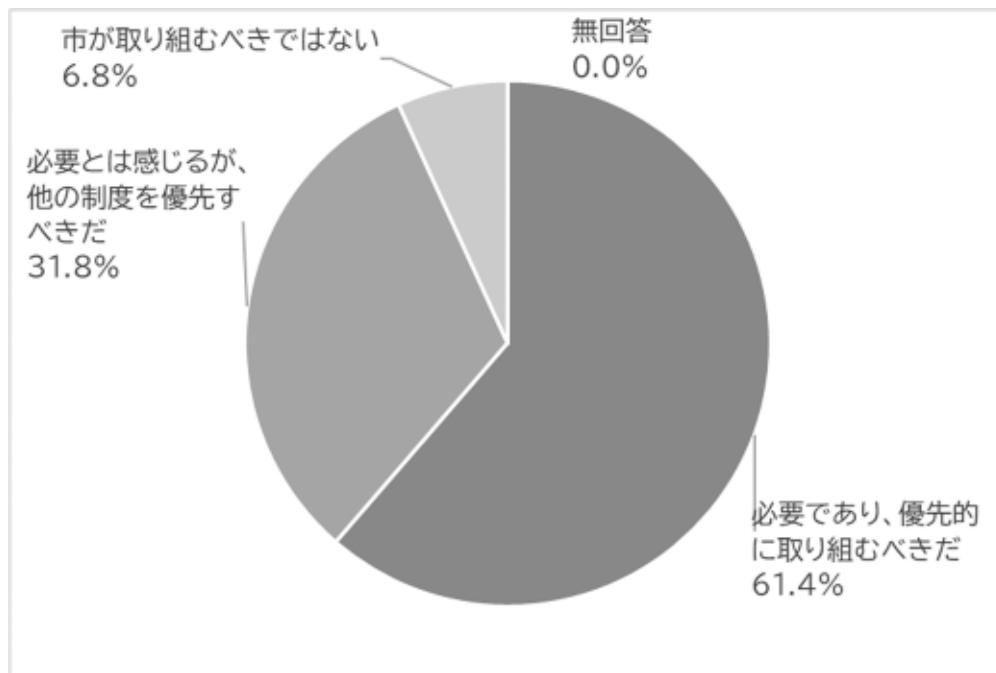
問5 損害賠償責任保険の被保険者の範囲が拡大され、一部の保険会社では、事故を起こした被保険者が重度の認知症などで「責任無能力者」であった場合、監督義務がある「別居の親族」や「別居の未婚の子」であっても補償が受けられるようになったことを知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		132人	5.3%	94.7%	0.0%
性別	男性	54人	3.7%	96.3%	0.0%
	女性	78人	6.4%	93.6%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	12人	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	20人	5.0%	95.0%	0.0%
	40歳代	25人	16.0%	84.0%	0.0%
	50歳代	23人	4.3%	95.7%	0.0%
	60歳代	23人	0.0%	100.0%	0.0%
	70歳以上	28人	3.6%	96.4%	0.0%
区別	門司区	15人	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉北区	25人	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉南区	26人	15.4%	84.6%	0.0%
	若松区	10人	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	10人	10.0%	90.0%	0.0%
	八幡西区	35人	0.0%	100.0%	0.0%
	戸畑区	11人	18.2%	81.8%	0.0%

一部の保険会社で被保険者が「責任無能力者」の場合、「別居の親族」や「別居の未婚の子」でも補償が受けられることについて、「知っている」が 5.3%、「知らない」が 94.7% でした。40 歳代以外のほかの年代では「知らない」が 90%以上となり、ほとんど知られていないことがわかりました。

問6 市が認知症の人を対象とする補償制度を整備することについてどのように思いますか。

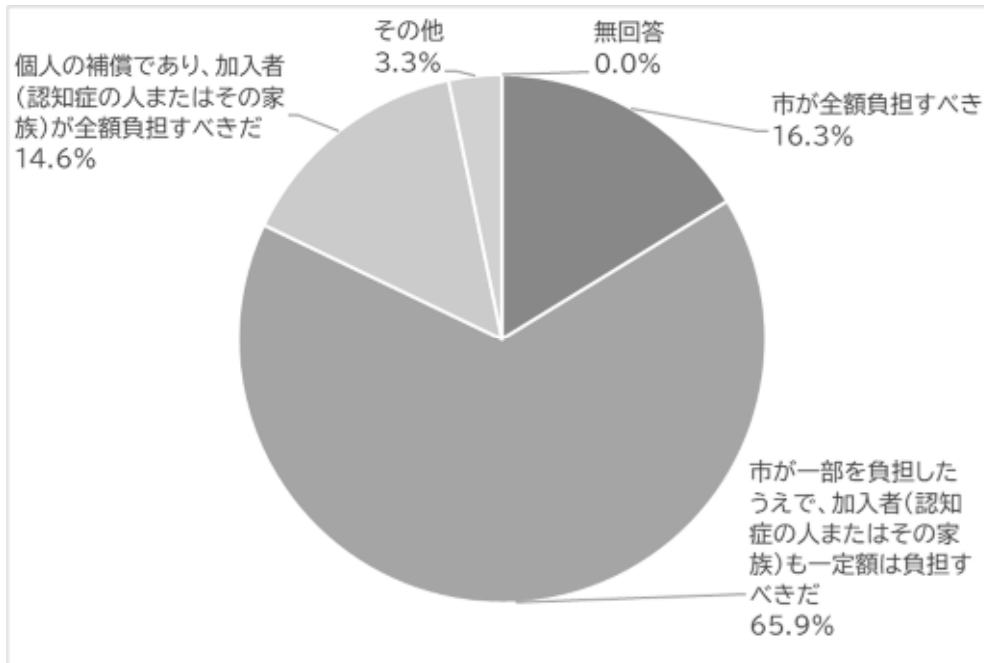


		回答者数	必要であり、優先的に取り組むべきだ	必要とは感じるが、他の制度を優先すべきだ	市が取り組むべきではない	無回答
全体		132人	61.4%	31.8%	6.8%	0.0%
性別	男性	54人	68.5%	20.4%	11.1%	0.0%
	女性	78人	56.4%	39.7%	3.8%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	20人	60.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	40歳代	25人	64.0%	32.0%	4.0%	0.0%
	50歳代	23人	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%
	60歳代	23人	47.8%	43.5%	8.7%	0.0%
	70歳以上	28人	64.3%	21.4%	14.3%	0.0%
区別	門司区	15人	73.3%	20.0%	6.7%	0.0%
	小倉北区	25人	60.0%	32.0%	8.0%	0.0%
	小倉南区	26人	57.7%	34.6%	7.7%	0.0%
	若松区	10人	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	35人	62.9%	31.4%	5.7%	0.0%
	戸畑区	11人	81.8%	9.1%	9.1%	0.0%

市が認知症の方を補償する制度を整備することについては、「必要であり、優先的に取り組むべきだ」が61.4%、「必要とは感じるが、他の制度を優先すべきだ」が31.8%、「市が取り組むべきではない」が6.8%でした。

<問6で「必要であり、優先的に取り組むべきだ」、「必要とは感じるが、他の制度を優先すべきだ」と回答した方にお尋ねします。>

問7 もし市が補償制度を整備した場合、保険料の負担について、どのように思いますか。



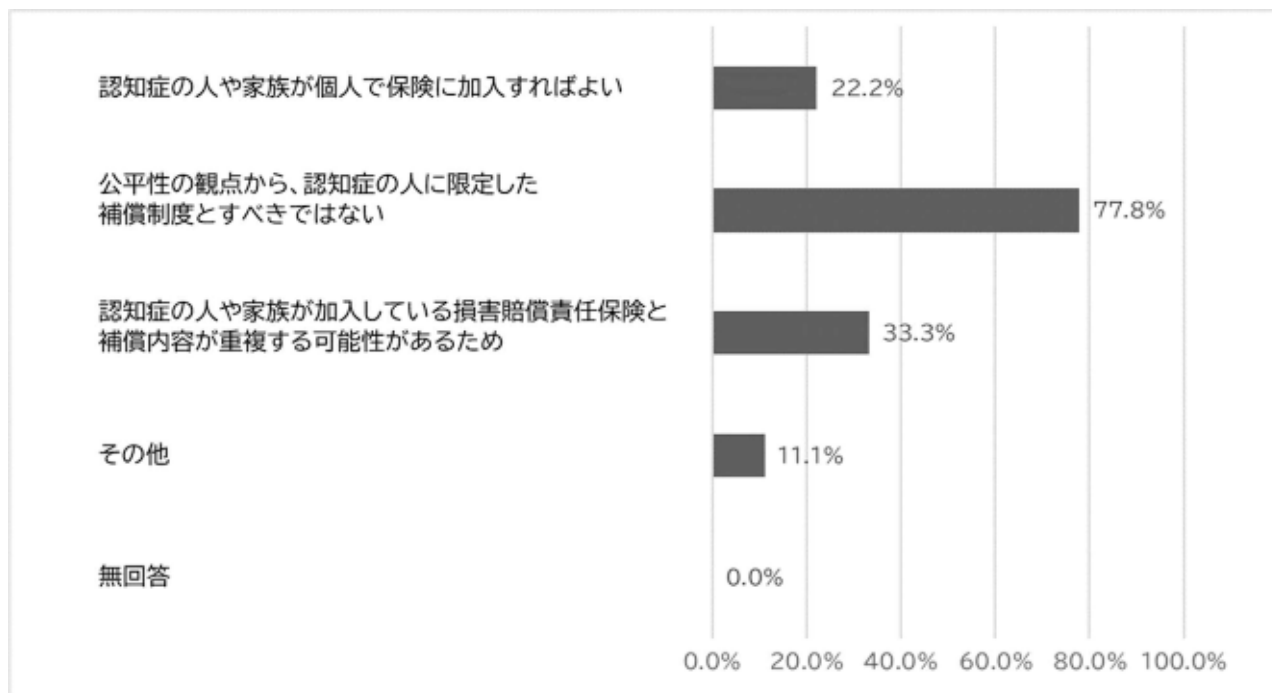
		回答者数	市が全額負担すべき	市が一部を負担したうえで、加入者(認知症の人またはその家族)も一定額は負担すべきだ	個人の補償であり、加入者(認知症の人またはその家族)が全額負担すべきだ	その他	無回答
全体		123人	16.3%	65.9%	14.6%	3.3%	0.0%
性別	男性	48人	22.9%	62.5%	10.4%	4.2%	0.0%
	女性	75人	12.0%	68.0%	17.3%	2.7%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	16.7%	58.3%	25.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	18人	16.7%	61.1%	16.7%	5.6%	0.0%
	40歳代	24人	25.0%	54.2%	16.7%	4.2%	0.0%
	50歳代	23人	21.7%	65.2%	13.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	14.3%	57.1%	19.0%	9.5%	0.0%
	70歳以上	24人	4.2%	91.7%	4.2%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14人	0.0%	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%
	小倉北区	23人	21.7%	60.9%	17.4%	0.0%	0.0%
	小倉南区	24人	16.7%	66.7%	12.5%	4.2%	0.0%
	若松区	10人	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	9人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	33人	15.2%	63.6%	18.2%	3.0%	0.0%
	戸畑区	10人	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%

市が補償制度を整備した場合の保険料の負担について最も多かった回答は、「市が一部を負担したうえで、加入者(認知症の人またはその家族)も一定額は負担すべきだ」で65.9%でした。年代別でも全ての年代で50%以上となっています。

次いで、「市が全額負担すべき」が16.3%、「個人の補償であり、加入者(認知症の人またはその家族)が全額負担すべきだ」が14.6%でした。

<問6で「市が取り組むべきではない」と回答した方にお尋ねします。>

問8 その理由はなんですか(2つまで回答)

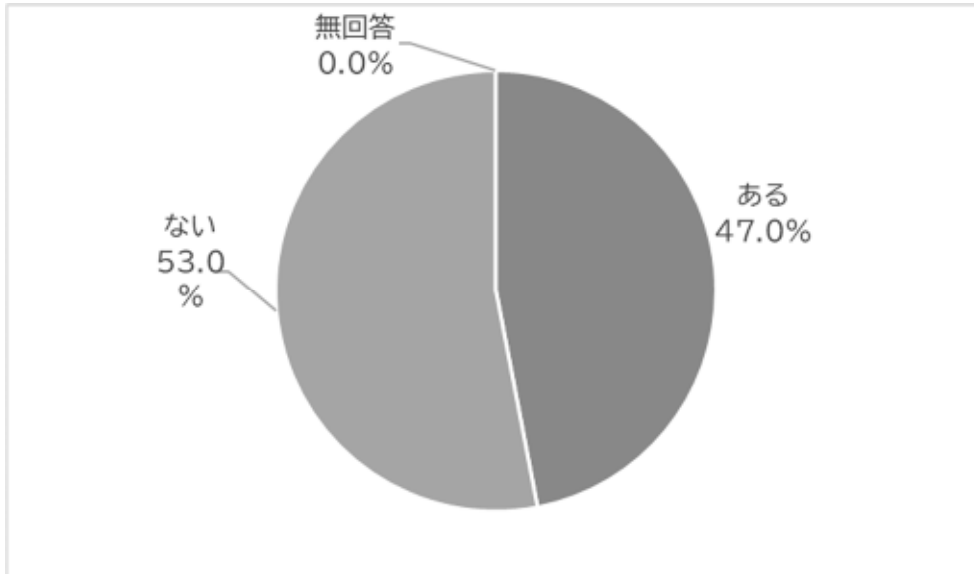


	回答者数	認知症の人や家族が個人で保険に加入すればよい	公平性の観点から、認知症の人に限定した補償制度とすべきではない	認知症の人や家族が加入している損害賠償責任保険と補償内容が重複する可能性があるため	その他	無回答	
全体	9人	22.2%	77.8%	33.3%	11.1%	0.0%	
性別	男性	6人	33.3%	83.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	女性	3人	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	70歳以上	4人	0.0%	100.0%	75.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	1人	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	2人	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	2人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	1人	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	2人	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	戸畑区	1人	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%

「市が取り組むべきではない」と回答した理由として最多の意見は「公平性の観点から、認知症の人に限定した補償制度とすべきではない」で 77.8%でした。次いで、「認知症の人や家族が加入している損害賠償責任保険と補償内容が重複する可能性があるため」が 33.3%、「認知症の人や家族が個人で保険に加入すればよい」が 22.2%でした。

(認知症に関する相談や受診について)

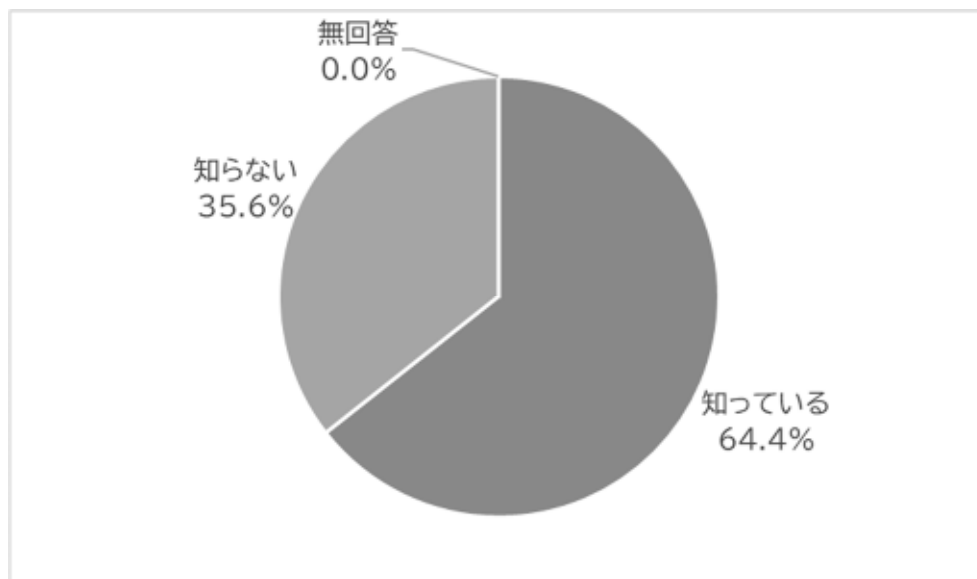
問9 ものわすれなどの認知症に関して医療機関を受診したい(させたい)と考えたことがありますか。



		回答者数	ある	ない	無回答
全体		132人	47.0%	53.0%	0.0%
性別	男性	54人	51.9%	48.1%	0.0%
	女性	78人	43.6%	56.4%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	12人	25.0%	75.0%	0.0%
	30歳代	20人	50.0%	50.0%	0.0%
	40歳代	25人	52.0%	48.0%	0.0%
	50歳代	23人	56.5%	43.5%	0.0%
	60歳代	23人	65.2%	34.8%	0.0%
	70歳以上	28人	28.6%	71.4%	0.0%
区別	門司区	15人	40.0%	60.0%	0.0%
	小倉北区	25人	40.0%	60.0%	0.0%
	小倉南区	26人	46.2%	53.8%	0.0%
	若松区	10人	60.0%	40.0%	0.0%
	八幡東区	10人	80.0%	20.0%	0.0%
	八幡西区	35人	42.9%	57.1%	0.0%
	戸畑区	11人	45.5%	54.5%	0.0%

ものわすれなどの認知症に関して医療機関を受診したい(させたい)と考えたことが「ある」が47.0%、「ない」が53.0%でした。

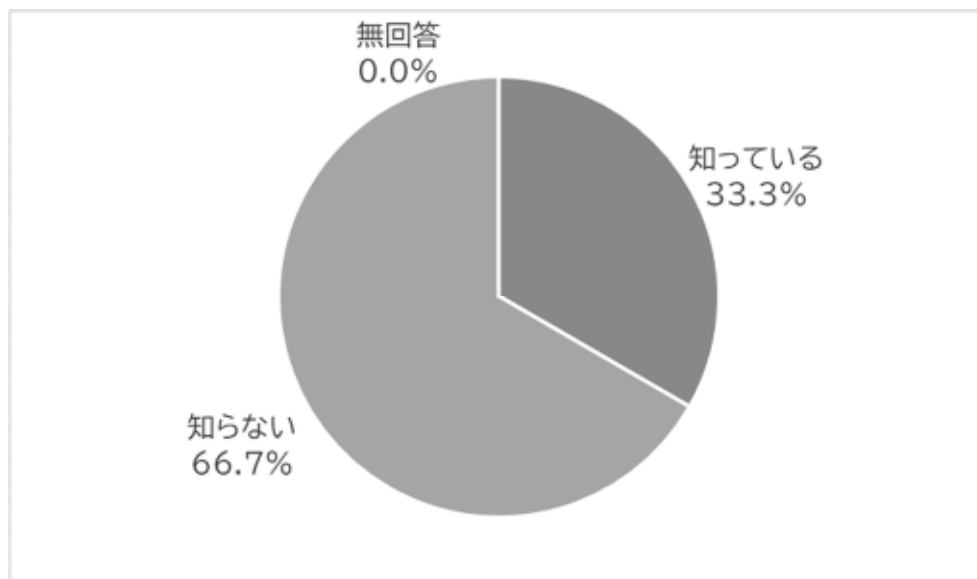
問10 認知症について不安や心配がある方が、気軽に受診できる医療機関「ものわすれ外来」について知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		132人	64.4%	35.6%	0.0%
性別	男性	54人	55.6%	44.4%	0.0%
	女性	78人	70.5%	29.5%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	41.7%	58.3%	0.0%
	30歳代	20人	65.0%	35.0%	0.0%
	40歳代	25人	60.0%	40.0%	0.0%
	50歳代	23人	65.2%	34.8%	0.0%
	60歳代	23人	69.6%	30.4%	0.0%
	70歳以上	28人	71.4%	28.6%	0.0%
区別	門司区	15人	66.7%	33.3%	0.0%
	小倉北区	25人	72.0%	28.0%	0.0%
	小倉南区	26人	57.7%	42.3%	0.0%
	若松区	10人	70.0%	30.0%	0.0%
	八幡東区	10人	80.0%	20.0%	0.0%
	八幡西区	35人	54.3%	45.7%	0.0%
	戸畑区	11人	72.7%	27.3%	0.0%

「ものわすれ外来」については、「知っている」が64.4%、「知らない」が35.6%でした。30歳代以上は「知っている」割合が60%以上でしたが、20歳代のみ41.7%と他の年代より低い結果でした。

問11 お近くの地域包括支援センターで認知症に関する相談ができることを知っていますか。

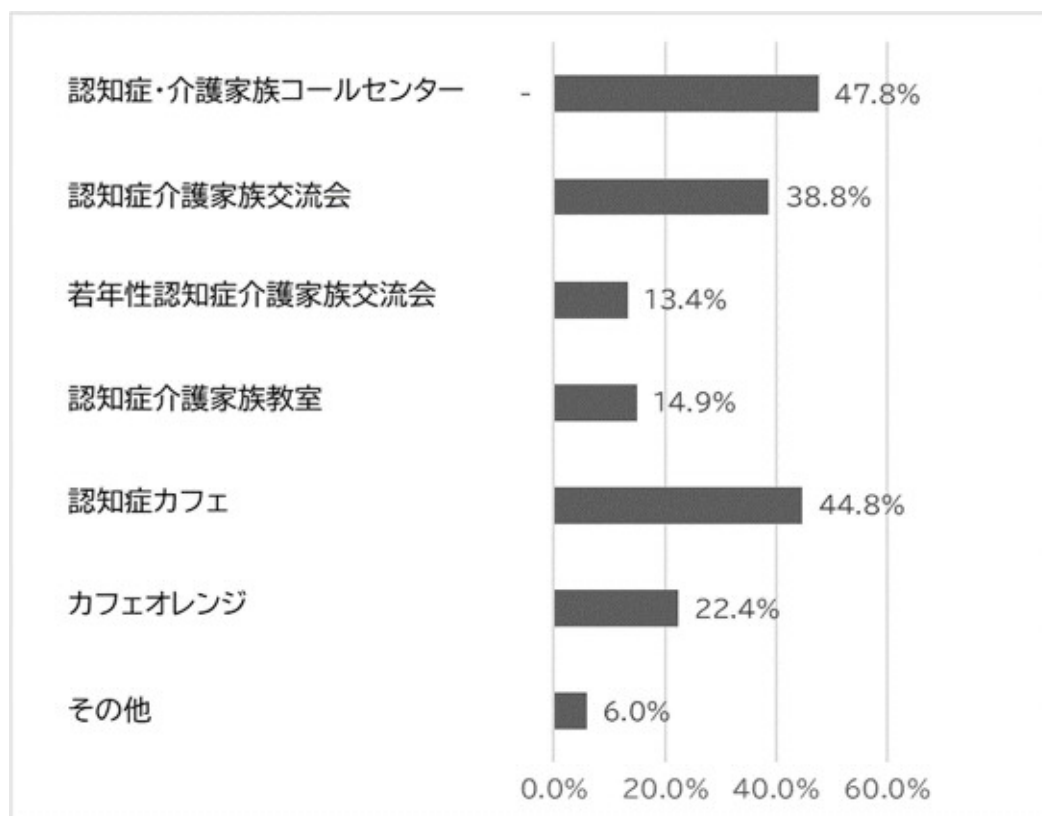


		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		132人	33.3%	66.7%	0.0%
性別	男性	54人	24.1%	75.9%	0.0%
	女性	78人	39.7%	60.3%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	12人	8.3%	91.7%	0.0%
	30歳代	20人	30.0%	70.0%	0.0%
	40歳代	25人	36.0%	64.0%	0.0%
	50歳代	23人	21.7%	78.3%	0.0%
	60歳代	23人	47.8%	52.2%	0.0%
	70歳以上	28人	42.9%	57.1%	0.0%
区別	門司区	15人	33.3%	66.7%	0.0%
	小倉北区	25人	40.0%	60.0%	0.0%
	小倉南区	26人	34.6%	65.4%	0.0%
	若松区	10人	40.0%	60.0%	0.0%
	八幡東区	10人	30.0%	70.0%	0.0%
	八幡西区	35人	25.7%	74.3%	0.0%
	戸畑区	11人	36.4%	63.6%	0.0%

地域包括支援センターで認知症に関する相談ができることを「知っている」が 33.3%、「知らない」が 66.7%でした。

60 歳代、70 歳以上では4割以上の認知度があるのに対し、10、20 歳代の若年層では 1 割未満と、認知度が低い状況です。

問12 北九州市が行っている、認知症に関する相談支援事業で知っているものはありますか。
 (複数回答可)



		回答者数	認知症・介護家族コールセンター	認知症介護家族交流会	若年性認知症介護家族交流会	認知症介護家族教室	認知症カフェ
全体		67人	47.8%	38.8%	13.4%	14.9%	44.8%
性別	男性	25人	64.0%	36.0%	12.0%	16.0%	32.0%
	女性	42人	38.1%	40.5%	14.3%	14.3%	52.4%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	5人	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%
	30歳代	9人	44.4%	33.3%	33.3%	11.1%	33.3%
	40歳代	11人	45.5%	45.5%	27.3%	9.1%	36.4%
	50歳代	12人	41.7%	33.3%	0.0%	25.0%	33.3%
	60歳代	12人	58.3%	50.0%	16.7%	16.7%	58.3%
	70歳以上	18人	55.6%	38.9%	5.6%	16.7%	55.6%
区別	門司区	6人	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%
	小倉北区	17人	35.3%	58.8%	11.8%	11.8%	52.9%
	小倉南区	10人	50.0%	30.0%	20.0%	30.0%	50.0%
	若松区	7人	42.9%	42.9%	14.3%	28.6%	57.1%
	八幡東区	2人	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%
	八幡西区	20人	60.0%	30.0%	20.0%	10.0%	25.0%
	戸畑区	5人	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	40.0%

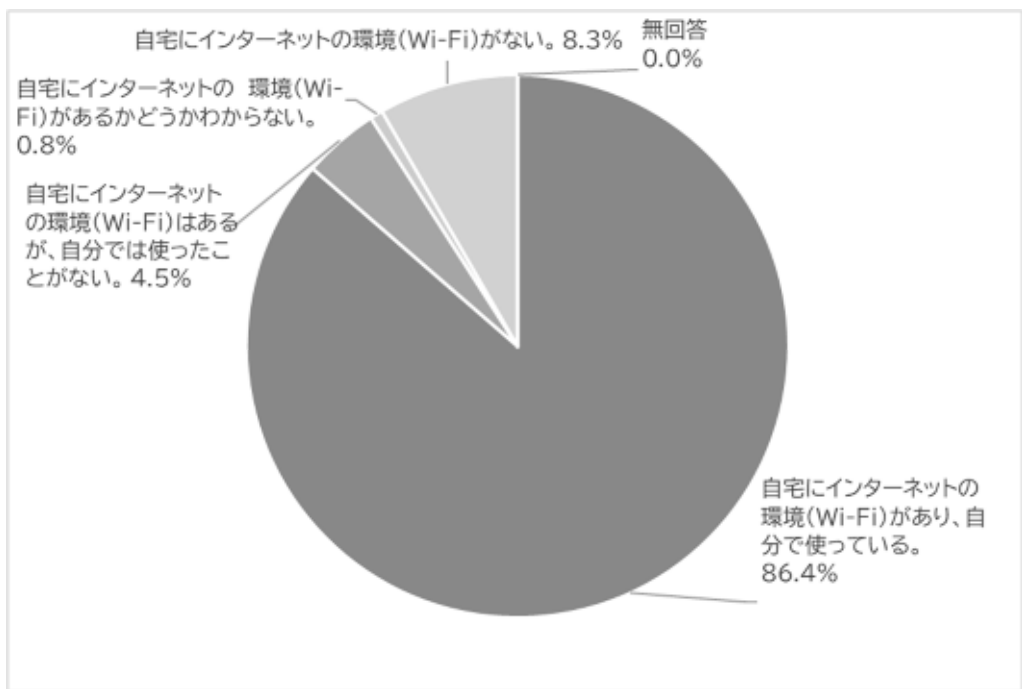
(次ページへ続く)

		回答者数	カフェオレンジ	その他
全体		67人	22.4%	6.0%
性別	男性	25人	20.0%	12.0%
	女性	42人	23.8%	2.4%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%
	20歳代	5人	20.0%	0.0%
	30歳代	9人	0.0%	22.2%
	40歳代	11人	18.2%	9.1%
	50歳代	12人	25.0%	0.0%
	60歳代	12人	25.0%	0.0%
	70歳以上	18人	33.3%	5.6%
区別	門司区	6人	16.7%	0.0%
	小倉北区	17人	35.3%	5.9%
	小倉南区	10人	50.0%	10.0%
	若松区	7人	14.3%	0.0%
	八幡東区	2人	0.0%	0.0%
	八幡西区	20人	5.0%	10.0%
	戸畑区	5人	20.0%	0.0%

北九州市が行っている認知症に関する相談支援事業で知っているものについては、「認知症・介護家族コールセンター」が 47.8%、「認知症カフェ」が 44.8%、「認知症介護家族交流会」が 38.8%と上位3つに挙げられました。

(オンラインを使った健康づくりや介護予防に関して)

問13 自宅のインターネット環境(Wi-Fi)について、あてはまるものを選んでください。

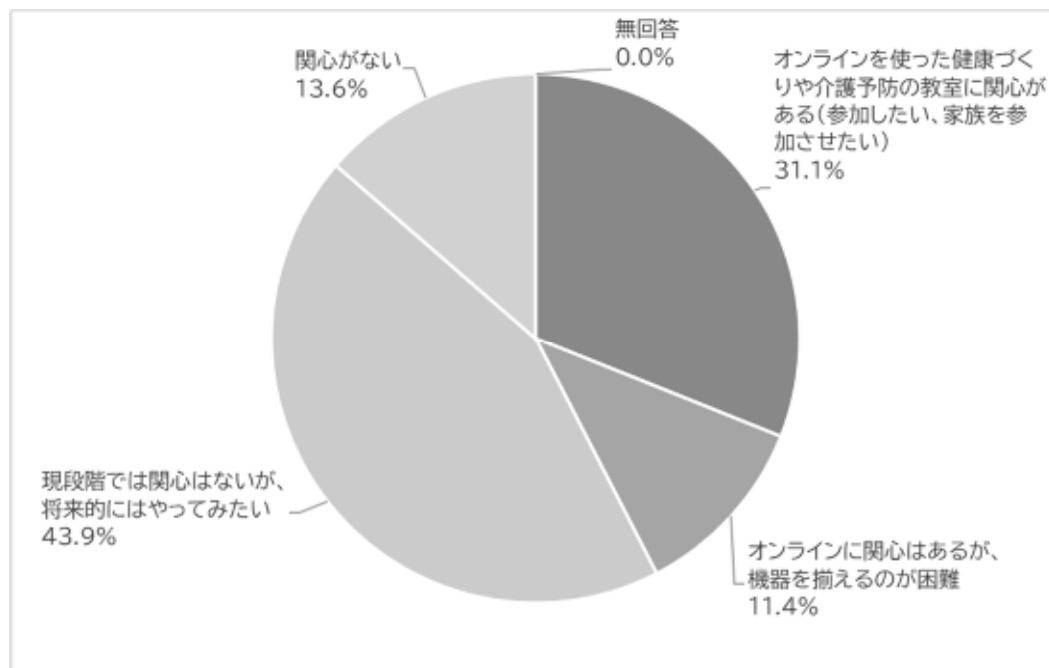


		回答者数	自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)があり、自分で使っている。	自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)はあるが、自分では使ったことがない。	自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)があるかどうか分からない。	自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)がない。	無回答
全体		132人	86.4%	4.5%	0.8%	8.3%	0.0%
性別	男性	54人	90.7%	0.0%	0.0%	9.3%	0.0%
	女性	78人	83.3%	7.7%	1.3%	7.7%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	12人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	20人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	88.0%	4.0%	0.0%	8.0%	0.0%
	50歳代	23人	87.0%	4.3%	0.0%	8.7%	0.0%
	60歳代	23人	91.3%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%
	70歳以上	28人	64.3%	14.3%	0.0%	21.4%	0.0%
区別	門司区	15人	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	25人	84.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%
	小倉南区	26人	76.9%	7.7%	0.0%	15.4%	0.0%
	若松区	10人	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	10人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	35人	91.4%	0.0%	2.9%	5.7%	0.0%
	戸畑区	11人	90.9%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%

自宅のインターネット環境については、「自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)があり、自分で使っている。」が86.4%と非常に高い割合でした。

70歳以上では、「自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)がない。」「自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)はあるが、自分では使ったことがない。」を合わせると35.7%と、他の年代と比較して、使ったことがない割合が圧倒的に高くなっています。

問14 自宅からオンラインで健康づくりや介護予防の教室に参加することについて、あなたの考えに近いものをお答えください。

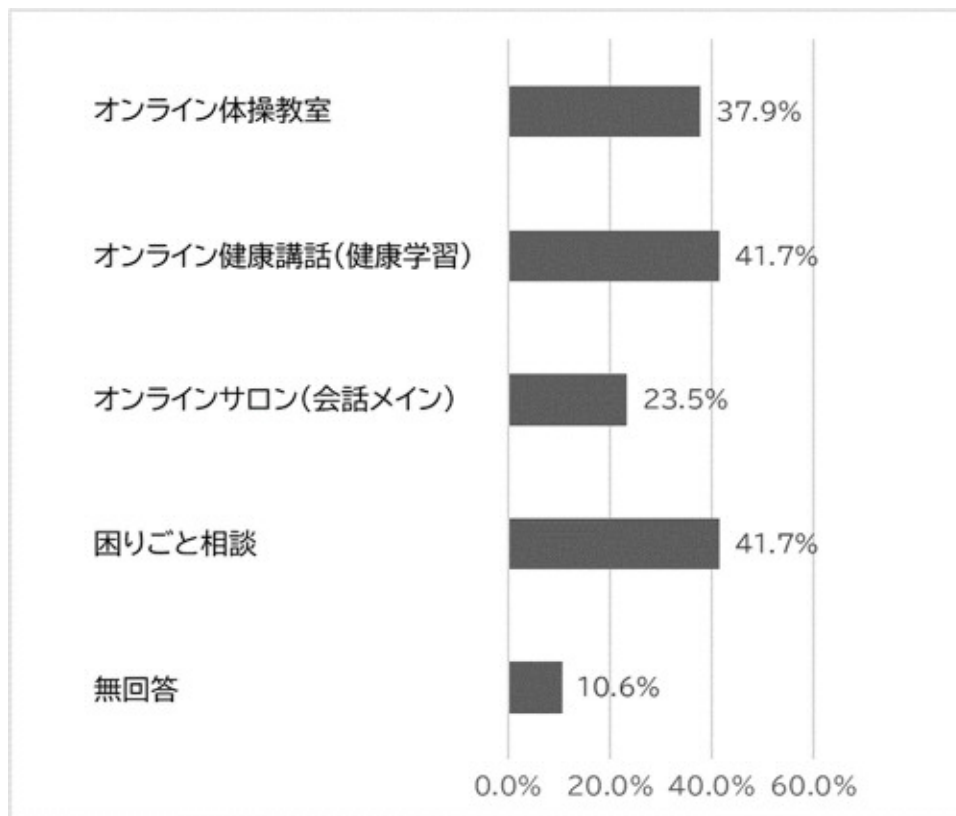


		回答者数	オンラインを使った健康づくりや介護予防の教室に関心がある(参加したい、家族を参加させたい)	オンラインに関心はあるが、機器を揃えるのが困難	現段階では関心はないが、将来的にはやってみたい	関心がない	無回答
全体		132人	31.1%	11.4%	43.9%	13.6%	0.0%
性別	男性	54人	33.3%	7.4%	44.4%	14.8%	0.0%
	女性	78人	29.5%	14.1%	43.6%	12.8%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	12人	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	20人	15.0%	15.0%	60.0%	10.0%	0.0%
	40歳代	25人	24.0%	8.0%	56.0%	12.0%	0.0%
	50歳代	23人	39.1%	21.7%	26.1%	13.0%	0.0%
	60歳代	23人	52.2%	8.7%	30.4%	8.7%	0.0%
	70歳以上	28人	28.6%	10.7%	46.4%	14.3%	0.0%
区別	門司区	15人	20.0%	13.3%	46.7%	20.0%	0.0%
	小倉北区	25人	32.0%	12.0%	40.0%	16.0%	0.0%
	小倉南区	26人	23.1%	7.7%	53.8%	15.4%	0.0%
	若松区	10人	50.0%	10.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	10人	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	35人	34.3%	8.6%	45.7%	11.4%	0.0%
	戸畑区	11人	27.3%	36.4%	18.2%	18.2%	0.0%

オンラインでの健康づくりについては、「現段階では関心はないが、将来的にはやってみたい」が43.9%、「オンラインを使った健康づくりや介護予防の教室に関心がある(参加したい、家族を参加させたい)」が31.1%、「関心がない」が13.6%と上位3つに挙げられました。

オンラインに最も関心があるのは60歳代で、関心があると将来的にはやってみたいを合わせると82.6%でした。

問15 健康づくりや介護予防にオンラインを活用するとしたら、どんな場面がよいと考えますか。(2つまで回答)



		回答者数	オンライン体操教室	オンライン健康講話(健康学習)	オンラインサロン(会話メイン)	困りごと相談	無回答
全体		132人	37.9%	41.7%	23.5%	41.7%	10.6%
性別	男性	54人	38.9%	44.4%	24.1%	46.3%	9.3%
	女性	78人	37.2%	39.7%	23.1%	38.5%	11.5%
年齢別	10歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	12人	25.0%	25.0%	41.7%	8.3%	41.7%
	30歳代	20人	45.0%	55.0%	15.0%	30.0%	5.0%
	40歳代	25人	28.0%	32.0%	20.0%	52.0%	16.0%
	50歳代	23人	47.8%	43.5%	21.7%	39.1%	4.3%
	60歳代	23人	52.2%	34.8%	30.4%	52.2%	4.3%
	70歳以上	28人	25.0%	53.6%	21.4%	46.4%	7.1%
区別	門司区	15人	46.7%	60.0%	20.0%	33.3%	6.7%
	小倉北区	25人	32.0%	44.0%	32.0%	36.0%	16.0%
	小倉南区	26人	34.6%	42.3%	15.4%	34.6%	11.5%
	若松区	10人	20.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%
	八幡東区	10人	40.0%	30.0%	10.0%	60.0%	10.0%
	八幡西区	35人	48.6%	31.4%	25.7%	57.1%	2.9%
	戸畑区	11人	27.3%	63.6%	27.3%	27.3%	9.1%

健康づくりや介護予防に関してどのような場面でオンラインを活用したいかについては、「オンライン健康講話(健康学習)」が 41.7%、「困りごと相談」が 41.7%、オンライン体操教室が 37.9%でした。

問16 その他、認知症支援・介護予防に関するご意見等がございましたらご記入ください。

- ・市政だよりに見守りシール配布の記事を見ました。いろいろな支援に取り組んでいることを知りました。その反面介護認定がなかなか受けられず困っている実態も聞きます。支援が必要な時2～3時間でも気軽に受け入れてくれる場所があるといいのではと考えます。
- ・相談場所が数多くあれば、良いと思います。
- ・認知症の制度や予防対策についてもっと見識を深める必要があります、そのためには誰でも気軽にこのような事が学べる場所がもっと有れば良いのではと思います。
- ・まだまだ知らない制度だらけだったので、もっと知ってもらう機会が必要。おそらく知らない人の方が多いのでは？
- ・北九州は認知症に関する情報発信が少ないとの話しも耳にしたので行政ももっと告知をして周知すべきでは？と思いました。
- ・今は健常な人でもいずれ認知症になる可能性があるし、統計上でも今後認知症の人が大きな割合を占めるといふ予測が出されているので、対策は必要だと思う。まずは既存の制度やサービスを周知してもらい活用してもらうことが大事だと思います。
- ・認知症が軽度のうちに治療対応できることを皆さんに知ってほしい
- ・要介護になる前の対策を強化すべきだと思う。
- ・高齢者が寝たきり状態になると、認知症支援・介護予防は困難となりますので、寝たきり状態になる前までに高齢者本人の考えも大切にしつつ、できることは本人でさせ、少し努力すればできることは支援やサポートをして目標をやり遂げる、そのような仕組みが大切なのかなと思います。
- ・高齢化社会の時代になり、高齢者福祉のコストが大きくなる一方だと思うので、そうならないために、若いうちからの健康維持のための施策を重視してほしい。
- ・家族のみが苦しむのではなく、市から介護資格の有る人材を、スピーディーに派遣して欲しい。
- ・それぞれの家で事情は違うと思うが、家で介護をするのは難しいと思う。介護施設の充実を促進して欲しい。

IV 全体考察

北九州市の認知症高齢者等は約4万人と推計されており、これは高齢者の7人に1人の割合で認知症の症状がみられることとなります。

今後も高齢化の進展に伴い、認知症高齢者等はさらに増えることが見込まれており、認知症に関する取組みは喫緊の課題となっています。

本市では、これまで、平成27年3月に「北九州市認知症施策推進計画(通称:北九州市版オレンジプラン)」を策定し、「市民一人ひとりが、認知症を正しく理解し、誰もが安心して暮らせる『みんなで支え合うまち』」を基本理念に総合的な認知症施策を推進してきました。

平成30年3月にはこれまでの北九州市版オレンジプランを改訂し、①市民一人ひとりが認知症のことを正しく理解する(普及啓発)、②認知症の人やその家族を支える体制を構築する(支援体制)、③認知症の人やその家族の視点や意向を尊重する(意向尊重)を基本方針として、認知症施策を推進してきました。

また、令和3年3月に再度改訂を行い、基本的な考え方は前プランを引き継ぎながら、①地域共生社会の実現、②本人発信の支援、③新しい生活様式への対応といった3つの視点を新たに設け、さらなる推進に取り組んでいるところです。

今回のアンケートは、今後の本市の認知症支援・介護予防に関連する事業を推進する基礎資料とするために実施しました。

【認知症に関する経験】

半数となる50.0%の人が「家族、親戚の中に認知症の人がいる(いた)」と回答しており、「認知症と思われる人を見かけたことである」(37.1%)の人と合わせると、87.1%の人が認知症の人と接した経験があることがわかりました。

本市の高齢化率は31.3%^{※1}と全国平均29.0%^{※2}を上回る高い数字となっています。アンケートの結果からも、認知症の人が身近に存在することが伺えます。

【認知症高齢者等の外出支援について】

認知症の人の外出支援のために必要だと思うことについては、「困った際に周囲に助けを求められることができる(助けてもらえる)サービス」(54.5%)が最も高く、また次に多かったのが、「認知症に関する正しい知識や理解が地域に浸透すること」(53.8%)でした。これは北九州市版オレンジプランの基本理念である「市民一人ひとりが、認知症を正しく理解し、誰もが安心して暮らせる『みんなで支え合うまち』」を更に推進していくことの重要性を示す結果となりました。

認知症の人が安心して外出するために北九州市が行っているサービスについての認知度は、「認知症サポーター養成講座」(31.1%)が最も多く、次いで「認知症行方不明者等SOSネットワークシステム」(15.2%)、「認知症高齢者等位置探索サービス」(13.6%)でした。

しかし、知っているサービスが「1つもない」(56.1%)の回答が最多でした。年齢構成を見ると、10歳代、20歳代の若年層については、80%以上の人知っているサービスが「1つも

ない」と回答しており、30歳代～60歳代の方についても半数以上の方が知っているサービスが「1つもない」と回答しています。70歳代になると(35.7%)と割合は減るものの、3割以上の方が知っているサービスが「1つもない」と回答する結果となりました。

このことから、今後一層の認知症施策の周知啓発が必要であると考えられ、親の世代を介護する可能性のある30歳代～60歳代の方向けの周知啓発に今後力を入れる必要があることが明らかとなりました。

他の自治体での賠償責任保険を活用した補償については、「知っている」(6.8%)、「知らない」(93.2%)となり、他の自治体での賠償責任保険の活用についてはほとんど知られていないことがわかりました。

また、損害賠償責任保険の被保険者の範囲が拡大され、一部の保険会社では、事故を起こした被保険者が重度の認知症などで「責任無能力者」であった場合、監督義務がある「別居の親族」や「別居の未婚の子」であっても補償が受けられるようになったことについて「知っている」(5.3%)、「知らない」(94.7%)であることから、損害賠償責任保険の被保険者の範囲の拡大についても知られていないことがわかりました。

認知症の人の外出支援のために必要だと思うことを尋ねた際の回答では、「事故等を起こした際に損害を補償する制度」を必要と考える方の割合は16.7%という結果で、高い割合ではなかったものの、市が認知症の方を補償する制度について限定して尋ねたところ、「必要であり、優先的に取り組むべきだ」(61.4%)、「必要とは感じるが、他の制度を優先すべきだ」(31.8%)、「市が取り組むべきではない」(6.8%)という結果となりました。

また、「必要であり、優先的に取り組むべきだ」、「必要とは感じるが、他の制度を優先すべきだ」と回答した人に保険料の負担について尋ねたところ、「市が一部を負担したうえで、加入者(認知症の人またはその家族)も一定額は負担すべきだ」(65.9%)が最も多く、「市が全額負担すべき」が16.3%、「個人の補償であり、加入者(認知症の人またはその家族)が全額負担すべきだ」が14.6%でした。

多くの方が、保険料の負担については、一定額は加入者が負担すべきと考えていることがわかりました。

また、「市が取り組むべきではない」と回答した方に理由を尋ねたところ、「公平性の観点から、認知症の人に限定した補償制度とすべきではない」(77.8%)が最多の意見となり、次いで、「認知症の人や家族が加入している損害賠償責任保険と補償内容が重複する可能性があるため」(33.3%)、「認知症の人や家族が個人で保険に加入すればよい」(22.2%)という結果でした。

【認知症に関する相談や受診について】

ものわすれなどの認知症に関する医療機関への受診について尋ねたところ、受診したい(させたい)と考えたことが「ある」(47.0%)であり、「ない」(53.0%)と回答した人とほぼ同数でした。

認知症について不安や心配がある方が、気軽に受診できる医療機関である「ものわすれ外来」について尋ねたところ、「知っている」(64.4%)、「知らない」(35.6%)という回答結果でした。

年齢別では、20歳代以外で「知っている」と回答した方が60%を超えており、幅広い年齢層にある程度は周知されていることがわかりました。

一方で、ものわすれ外来を「知らない」とする回答が35.6%と一定割合あることから、引き続き周知啓発の取り組みが必要であると考えられます。

地域包括支援センターで認知症に関する相談ができることを知っているか尋ねたところ、「知っている」(33.3%)、「知らない」(66.7%)という結果でした。

年齢別では、「知らない」と回答した割合が10～30歳代の若年層で高いことがわかりますが、50歳代(78.3%)、60歳代(52.2%)、70歳以上(57.1%)の方についても、地域包括支援センターで認知症に関する相談ができることを「知らない」と答えている割合が半数以上でした。認知症の相談窓口として地域包括支援センターをより一層周知啓発することが必要であると考えられます。

本市で行っている認知症に関する相談支援事業で知っているものについて尋ねたところ、「認知症・介護家族コールセンター」(47.8%)、「認知症カフェ」(44.8%)、「認知症介護家族交流会」(38.8%)「カフェオレンジ」(22.4%)という結果となりましたが、132人中65人(49.2%)の方については、知っている事業がなかった(未回答)ことから、認知症に関する相談支援事業について、周知啓発を行っていくことが必要であると考えられます。

【オンラインを使った健康づくりや介護予防に関して】

自宅のインターネット環境について「自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)があり、自分で使っている。」(86.4%)と答えた方が非常に高い割合でした。

年齢別では、70歳以上では、「自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)がない。」(21.4%)「自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)はあるが、自分では使ったことがない。」(14.3%)については、他の年代と比較して圧倒的に割合が高く、合わせて35.7%という結果となりましたが、6割以上の方が「自宅にインターネットの環境(Wi-Fi)があり、自分で使っている。」(64.3%)ということもわかりました。

オンラインでの健康づくりについて尋ねたところ「現段階では関心はないが、将来的にはやってみたい」(43.9%)、「オンラインを使った健康づくりや介護予防の教室に関心がある(参加したい、家族を参加させたい)」(31.1%)、「関心がない」(13.6%)という結果でした。

オンラインに最も関心があるのは60歳代で、関心があると将来的にはやってみたいを合わせると82.6%という結果でした。

全体としては、75%の方が関心があるもしくは将来的にはやってみたいと考えており、オンラインでの健康づくりや介護予防教室に多くの方が高い関心を持っていることを示す結果でした。

どのような場面でオンラインを活用したいかについては「オンライン健康講話(健康学習)」(41.7%)、「困りごと相談」(41.7%)、「オンライン体操教室」(37.9%)であり、「オンラインサロン(会話メイン)」(23.5%)という結果でした。会話がメインのものより、健康学習や体操教室といった受講できるものでのオンライン活用に関心があることがわかりました。

【まとめ】

今回のアンケートでは、認知症に関する経験において、75%の方がなんらかの形で認知症に関する経験があり、約半数の47%の方がものわすれなどの認知症に関して医療機関を受診したい(させたい)と考えたことがわかりました。

認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることなども含め、多くの人にとって身近なものとなっていることがこの結果からも伺えます。

また、本市の認知症支援・介護予防に関連する事業に対する市民の方の認知度、関心、意見などを確認することができました。

今回のアンケート結果については、今後の本市の認知症支援・介護予防の施策の立案のための基礎資料として活用させていただき、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指して、認知症支援・介護予防の事業を推進して参ります。

※1 住民基本台帳 令和4年3月31日現在の人口及び高齢者人口より算出

※2 総務省統計局人口推計 令和4年4月1日現在概算値

【市政モニターに関すること】

北九州市広報室広聴課(TEL:582-2527)

【アンケートに関すること】

北九州市保健福祉局 認知症支援・介護予防センター(TEL:522-8765)